高校改革について

　県教委は本年３月末、県立高校第２期再編の実施方針案を決定し、上伊那地域においても「再編の実施が前提」と明記した。それに先立って上伊那地域の８市町村で構成する上伊那広域連合では、県内では最初となる、地域の意見をまとめた「上伊那地域における高校教育の在り方について」を県教委に対して具申した。また、６月には「上伊那地域の高校の将来像を考える地域協議会」を発足させた。

《なぜ今高校改革なのか》

社会の大きな変化と急激な少子化に対応するために、高校のあり方について検討を進めています。その中で、

すべての生徒が自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びが実現をされるよう、高校改革に取り組んでいきます。

《実施方針案とは何か》

　　高校の将来像を具体的に描いていくための指針の案として「新たな学びの推進」と「再編・整備計画」のそ

れぞれについて方針を示しました。

《上伊那地域の再編の方向は》

　・再編を前提

　・伊那市と駒ヶ根市に都市部存立校を配置。学区内に中山間地存立校を配置

　・総合技術高校の配置などで専門教育を維持充実

《上伊那広域連合は県下でいち早く動き出したのはなぜか》

　　上伊那地域内の児童生徒が地域外の高校や中間一貫校へ流出し、県立高校の魅力づくりが欠かせないとの危

機感が背景にある。（平成30年3月末の上伊那地方から他地方への流出者数175人で流入の67人を108人

上回り県内で2番目に多くなった。近年の動向として一定数の生徒の他地区への流出が続いている。また今

後の当地区の中学校卒業予定者数は2017年と2031年の数字とを比較すると484人の減で73.9パーセント

になると予測される。）

《地域協議会とは？何をするの？》

　　県教委が示した再編計画の方向を地域協議会で具体的に検討する。

協議会の委員は県教委が必須とした市町村長や市町村教育委員、産業界の代表のほか、中学・高校の校長会、

ＰＴＡ連合会の各代表、上伊那地域振興局長らを含めた１８人。

高校再編案の作成まで全５回の会合を予定。６～７月に協議会が決める約３０人の関係者から意見を聞き取

る（意見聴取）。９～１０月は再編案を検討。１２月には上伊那郡辰野町、伊那市、駒ヶ根市で住民向けの地

域懇談会を開催。パブリックコメントを経て２０１９年１月には再編案をまとめる。この再編案には具体的

な再編対象校が盛り込まれる見通し。

※以上、実施方針案（県教委）、上伊那地域における高校教育のあり方（広域連合）、新聞各紙より引用

《同窓会はどうかかわっていくのか》

　　現状把握及び課題の共有を図るため、昨年度開催された地域懇談会への出席、今年度は県教委及び上伊那広

域連合からそれぞれ講師を招いての学習会を２回開催するなど役員会レベルでの対応を図ってきました。ま

た、常任理事会の中に高校改革研究委員会を設置し、具体的な推進を行うべく研究協議を行っています。社

会の大きな変化や少子化が顕著である状況の中、後輩たちがよりよい教育環境で学ぶことができるためには

何らかの改革は必要との認識の中で将来を見据えて、これからの子供たちのためにこの上伊那においてどう

学校を配置し、どう教育をしていけばよいのか、同窓会として何を後輩に残していったらよいのかを見極め

てこの課題に対処しなければないないと思います。県教委や広域連合の動向を注目し、情報を迅速に把握し、

それを会員の皆様に正確にお伝えしていきます。また会員の皆様からのご意見をお伺いし同窓会としての要

望を意見聴取やパブリックコメント等の機会を通じて、伝えていきたいと思います。会員の皆様からの建設

的で前向きなご意見をぜひ寄せください。